

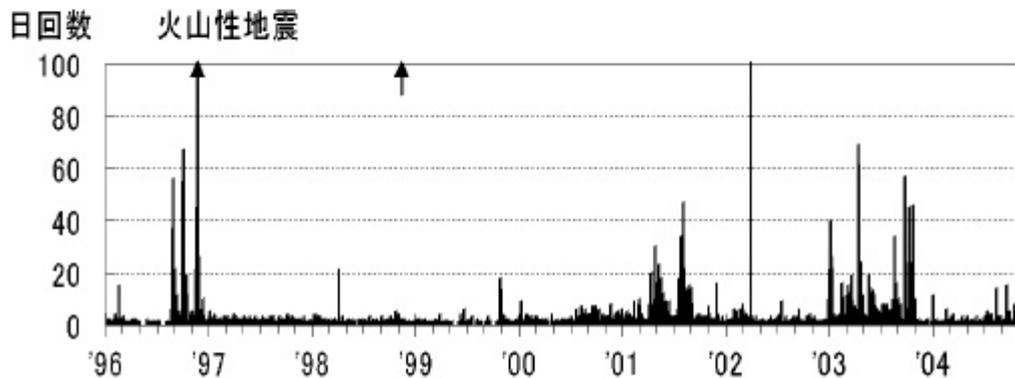
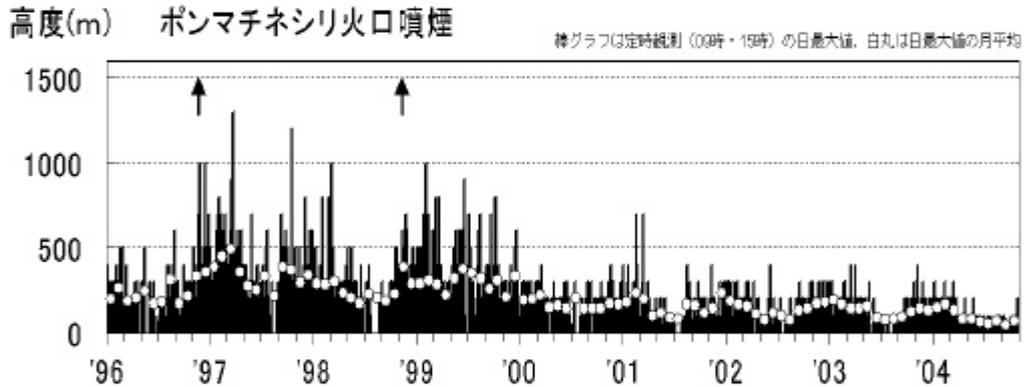
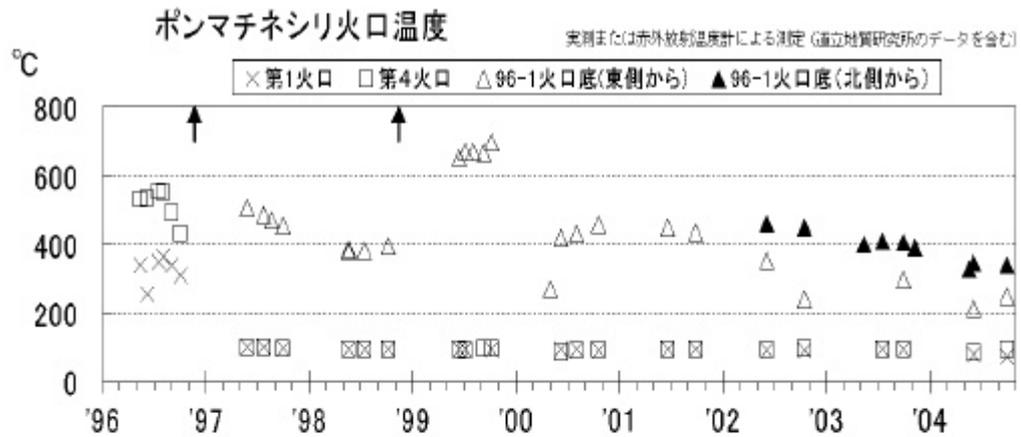
雌阿寒岳

1 概況

ポンマチネシリ 96-1 火口は高温の状態が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2 噴煙の状況

今期間のポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m以下で推移しました。噴煙の高さや噴出の勢いは 2000 年以降やや低下した状態が続いています。



最近の火山活動経過図（1996年1月1日～2004年10月31日） 印は噴火

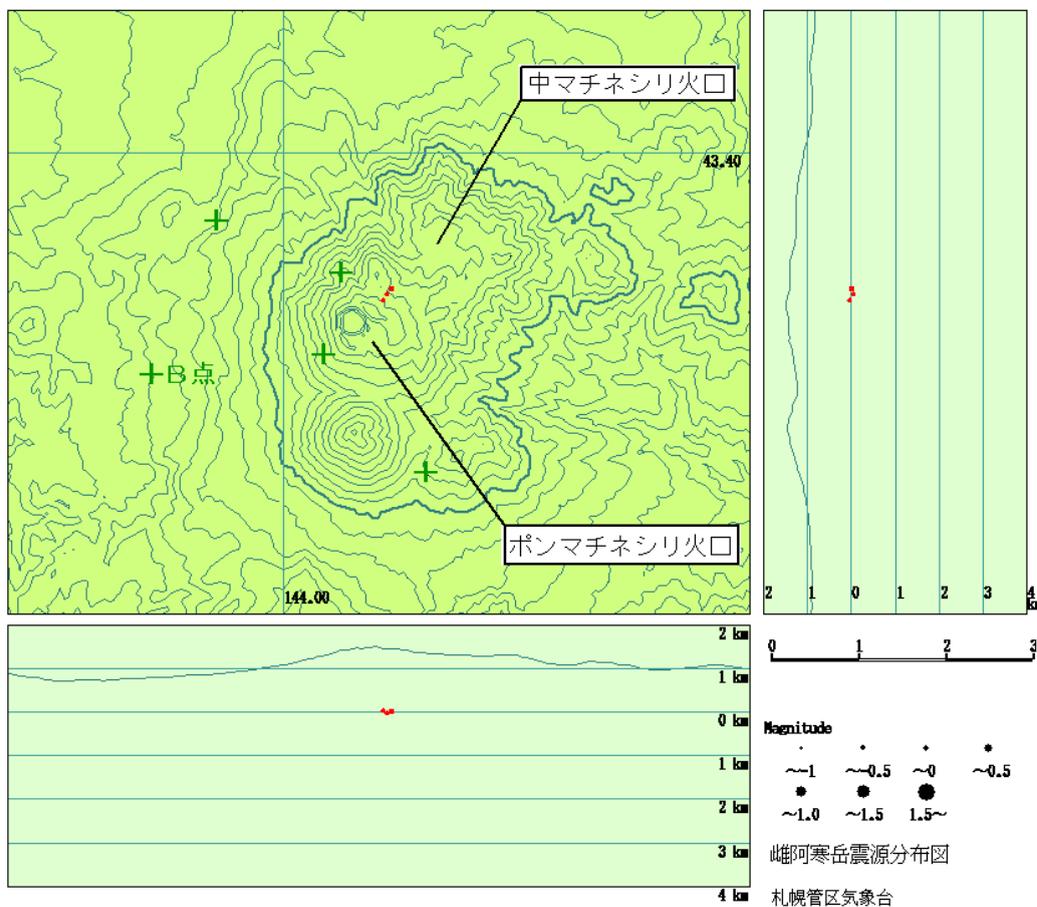
3 地震および微動の発生状況

今期間は、15～16日に中マチネシリ火口の南側が震源と推定される地震がややまとまって発生しましたが、十分な精度が得られなかったため震源分布図にはプロットしていません。

ポンマチネシリ火口浅部を震源とする地震は1日あたり0～5回と少なく、静穏に経過しました(震源分布図には精度のよい震源のみプロットしています)。火山性微動は昨年1月以降観測されていません。

地震・微動の月回数(B点)

2003～2004年	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
地震回数	19	12	19	20	17	15	16	17	33	52	42	40
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



雌阿寒岳の震源分布図(丸印:震源、+印:地震観測点)

赤丸は今期間(2004年10月1日～31日)に求めた震源を示しています。震源はポンマチネシリ火口周辺浅部に分布しています。

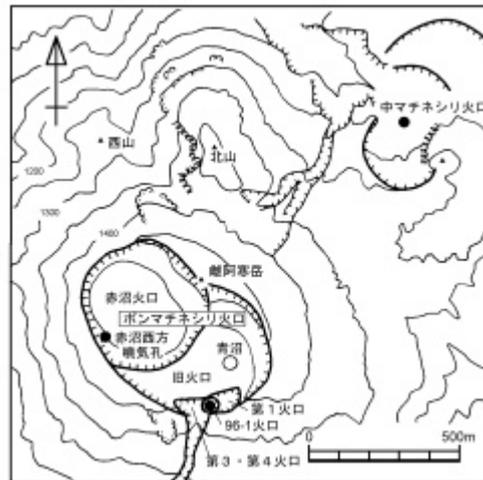
2004年10月5日に南岳に地震計を設置したことに伴い、震源決定が可能になりましたので、今月から、震源分布図を掲載します。

4 調査観測の結果

9 月 29 日～10 月 4 日に実施した調査観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口の温度は、依然として 300 以上の高温の状態が続いています。その他の火口も、前回の状況と比べて大きな変化はありませんでした。



96-1 火口底の状況（北側から撮影）



雌阿寒岳火口周辺図

【ポンマチネシリ火口】

・96-1 火口

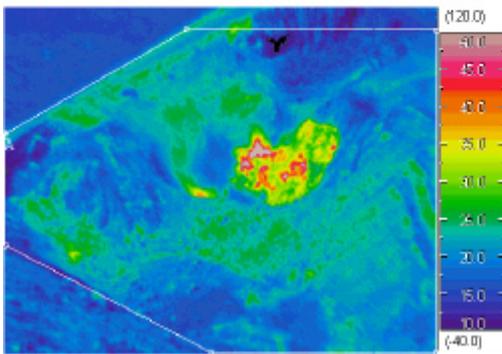
火口底の噴出口から高温の火山ガスが噴出していました。96-1 火口北側火口縁からの赤外放射温度計*による測定では約 350（前回 6 月 5 日：約 350）と、依然として 300 以上の高温の状態が続いています。噴出の強さや火山ガス濃度には前回と比べて特に変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による火口内の表面温度分布の観測では、高温域の拡大は明瞭には認められませんでした。



RG: 1 #: 1.00 SC: NORM

04/05/06

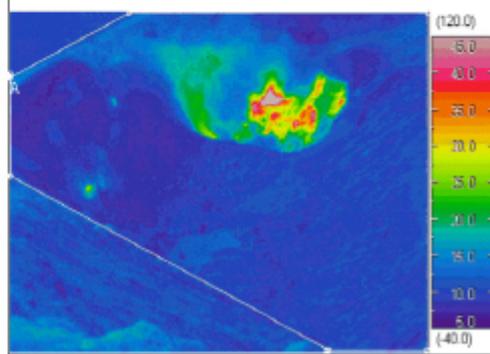
10:38:38



RG: 1 #: 1.00 SC: NORM

04/10/01

14:01:14



赤外熱映像装置による 96-1 火口および第 1 火口内部の表面温度分布
（左図：2004 年 6 月 6 日 右図：2004 年 10 月 1 日）

・赤沼西方噴気孔

南西側内壁の噴気孔から明瞭な音を伴い、噴気を勢いよく噴出していました。噴気孔周辺の变色域や高温域の範囲は前回と比べて大きな変化は見られませんでした。



赤沼西方噴気孔(東側から撮影)

・その他の火口

第1火口、第3火口、第4火口では弱い噴気や变色域が認められていますが、前回と比べて大きな変化は見られませんでした。

【中マチネシリ】

火口内部には多数の噴気孔が存在しており、噴気の勢いは強く、熱泥水噴出も見られました。噴気にはやや強い刺激臭が認められました。火口内の熱活動の状況は、前回と比べて大きな変化は見られませんでした。

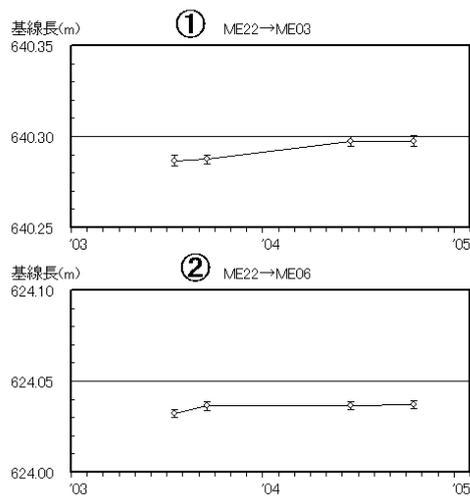


中マチネシリ(山頂から撮影)

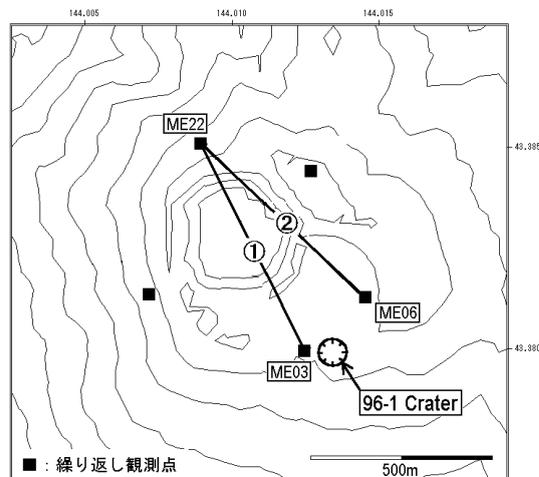
* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

【GPS 繰り返し観測】

GPS 繰り返し観測では、ポンマチネシリ火口を囲む基線では、観測誤差を上回る有意な変動は観測されていません。



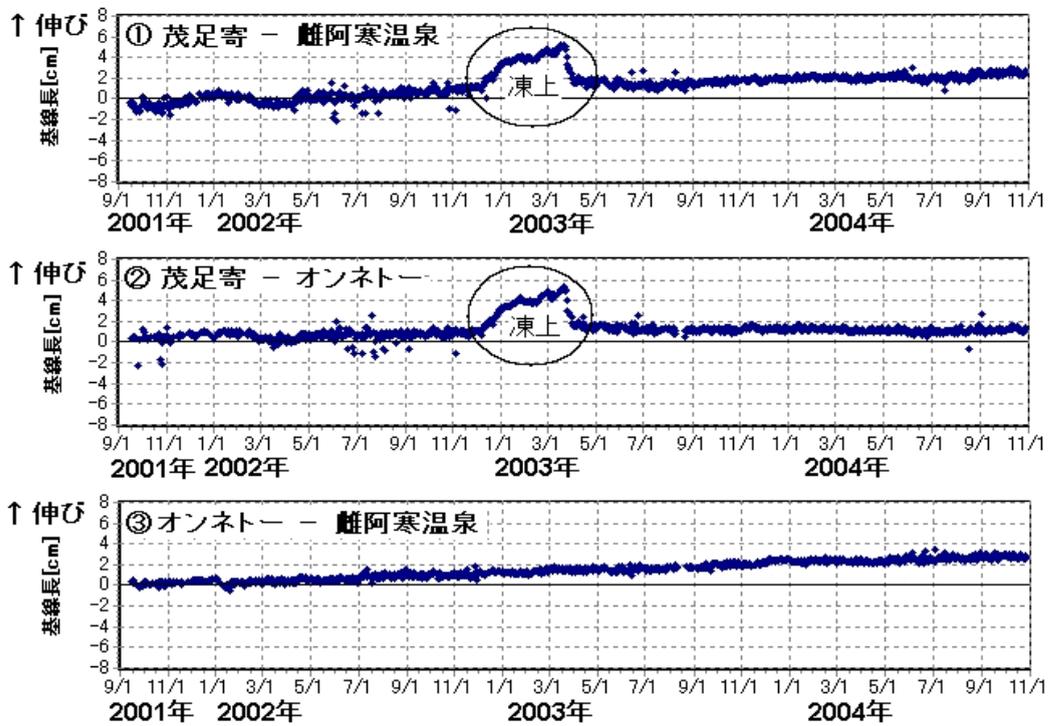
ポンマチネシリ火口周辺の基線長変化



山頂GPS繰り返し観測位置

5 地殻変動の状況

西麓での GPS 連続観測では、わずかな伸びの傾向を示す変動が認められていますが、火山活動との関連については今後の推移を見て判断する必要があります。



基線長変化(2001年9月19日~2004年10月31日)

